

# HOPE

|1| general chapter 2025

チャッ♪チャカ♪チャ♪

M. カタリナ (ナザレト)



シト一会のカリスマを共に生きる兄弟姉妹の皆さん、

ご一緒に踊っていただけませんか？

2025 年 9 月、本会の長上がア  
ッシジに勢ぞろいして、チャ・

チャ・カ【=チャ】の「総踊り」に

興じます。CHApitre general【仏】、general

CHApiter【英】、CApitulo general【西】のリズ

ムで! その準備として、ニュースレターを数回にわたってお届けし、本会の様々な方々に総

会について語っていただこうと思います。その人なりの「チャ・チャ・チャ」のイメージ、そこに

どんな呼びかけや挑戦を見出すか、それをどう経験するか、などです。こうして総会をより

身近に感じ、このダンスは長上ばかりか、本会挙げて総出で踊るものだということを実感し

て頂ければと思います。では、ニュースレターの第一号です。これから一年間、あと三回お

届けできればと存じます。舞王の主が、この踊りの輪に飛び入りです。

<https://www.youtube.com/watch?v=n1yzqsWxcBY>

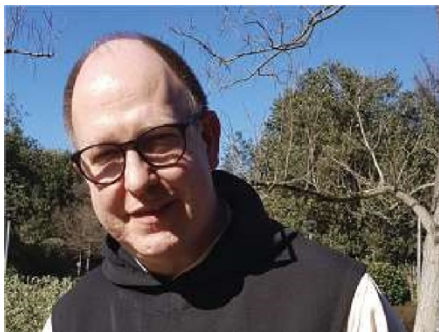
<https://cockrobin.blog.jp/archives/16102160.html> ←

参照：上記動画の歌詞（日・英）

あなたも、でしょう？

## 希望の架け橋

### D.ベルナルドゥス



チリで開催された中央委員会に辿り着くのに、大勢の参加者がぞろぞろと橋を渡らねばな

りませんでした。象徴的な橋...相互を隔てる地理的な距離のみならず、異なる文化や言語

をつなぐ橋を。その橋を渡り切ると、会議は参加者全員にとって希望のしるしとなりました。

本会は「いかなる文化形態、政治・経済・社会制度にも結ばれない」(会憲第70)のであって、

「これらの地方協議会は、他の諸地方協議会との交流を通して、諸国民・諸民族間の対話

をはかり、本修道会共通の遺産がますます評価されるようにはかる」(規定81.C)ということ

を、これまで以上に実感することができました。

チリの集まりに参加した人々がミニチュア

で体験したことは、2025年の総会に対して、私たちが希望するものでもあります。

総会という祝祭は、本会の全会員が共通の遺産をより深く理解し、それを生きるための時

機です。このニュースレターは、日常生活と総会の間をつなぐ架け橋となります。今日の世

界で共に希望のしるしとなるよう、世界中の兄弟姉妹からの挑戦を受けて立ちましょう。私

たちの願いは、総会が長上だけでなく、本会会員一人ひとりの魂にとって有益なものとなり、

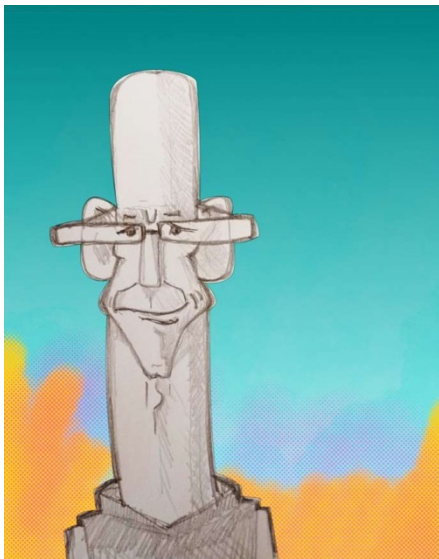
「信仰、愛、キリストとの完全な一致」（会憲第3条4項）において、私たちが真に成長する

助けとなることです。そのため、2025年の総会に向けて、私たちが皆、祈りと交わりのうち

に準備を進める

議題に挙げたのは、何？

D.エリアス（ゲツセマニ）



議題

二つの大きな議題が、ここ数年のうちに熟してきました。一つは母院-子院制です。修道院

の閉鎖やその他の理由で、多くの修道院に母院長がおらず、この役割を果たすに十分な

数の男子修道院長を見つけることがますます難しくなっています。一方、女子修道院長は、

本会のどの修道院でも視察を委任することができるようになり、実際、何人かの女子修道院長が母院長の役割を果たしています。さらに、本会はまもなく修道士と修道女の数が等しくなります。ですから、本会における女子修道院長の役割、女子母院長の可能性、という議題が、重要な議題の一つとなるでしょう。期の熟しつつある二つ目の議題は、脆弱な共同体に関するものです。アフィリエーション(連携関係)の可能性についてさらに議論が深められ、脆弱な共同体の同伴に関する規定の改訂版が総会に提出され、修道院集会の最低必要人数の問題について議論が開始されます。

他の議題は新しいものです：多くの共同体がもはや毎日ミサを受けることができないという事実を踏まえ、今日のシトー会生活における聖体祭儀の位置づけに関する研究と識別、総長・顧問・本会の様々な委員会のメンバーなどの役職の具体的な任期に関する問題、

諸修道院の地方の割り振りや現在の地方の機能の見直し、そして最後に、聖職者でない者を修道院長に選出することを可能にする最近の典礼法の改正を、本会法に統合する可能性について。どうやって？

これらの議題のいくつかについて、総会は共同体にその経験を諮問します。例えば、総会前に、共同体は聖体祭儀の経験についてアンケートを受けたり、総会の中でいくつかの脆弱な共同体の経験が共有されたりします。さらに広い範囲では、教皇フランシスコの回勅

『兄弟の皆さん』を出発点として、本会全体が共同体と地方の異文化的側面について考察と対話を行います。

共同体はまた、開会ミサや閉会ミサ、総長の開会の講話、おそらくその他の講話など、特定の行事の放送や録画を通して、総会により深く参加するよう招かれるでしょう。

参加者全員が総会での経験をより充実したものにするための努力がなされています。新し

い総会議員の事前準備に一層の注意を払い、初日には新旧の総会議員に総会の目的と機能についてオリエンテーションを行う時間を増やします。また、書記や翻訳者の様々な必要にも、より大きな注意が払われるでしょう。最後に、中央委員会は総会の幹事たちに対し、アッシジで共に過ごす3週間の霊的側面を強調する方法を見出すよう要請しました。総会の初めと中間に、一日の一部を割いて、霊的講話、考察と分かち合いのためのグループ会議、祈りと礼拝の時間などを、一種の黙想として設けます。全体会議でのセッションや委員会の会合も、祈りのひとときで始まり、祈りのひとときで終わります。

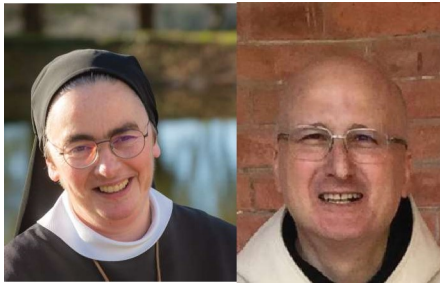
## 意向

これらすべての努力の意向とは、2025年の聖年における全教会との交わりの中で、「希望



のしるしのもとにある、現代世界におけるシトー会のカリスマ」について、本会を挙げて考察、対話、識別、祈りにおいて、総会に貢献するよう促すことです。

### 毎日々の聖体祭儀に関するアンケート



D. ロリス(フラットキー)

M. ベネディクト(エシヨルニヤック)

毎日の聖体祭儀というテーマについて、7月初旬にロリス神父(フラットキー)と M.ベネディクト(エシヨルニヤック)がアンケートを作成し、テキストは本会の全共同体に送付されました。

9月30日までに総長館に宛てて必ずご返信ください。ご回答いただきありがとうございます

す。次期総会における考察のために、貴重な基礎資料とさせていただきます。



## カリスマの美

総会のテーマに、なぜ「希望」を？

M. ジョヴァンナ (マトウトウム)



危機を乗り越えるには、本質的なもの、私たちに希望を与えるものに心を向ける必要があります。

今日、シトー会に希望はあるのでしょうか？

はい、そのとおりです!多くの共同体が成長しています。しかし、私たちは様々な問題や減

少傾向に目を奪われて、命のきざしを見落としてしまっています。そのため、中央委員会は

成長に特に目を向け、希望を強め、命を喜び祝うことを決定しました。総長様はすでに、希

望のきざしを見出せるように助けてくださり、私たちは皆、それに勇気づけられています。

次の総会では、命に目を向けたいと願っています。キリストと私たちのカリスマの美に立ち

返ることによってのみ、それを達成できるでしょう。

私にとって「希望」とは？

Sr.カタリナ(キルボ)



私にとって希望とは、自分の心とイエスとの邂逅の間に張られた綱です。

きっと、その綱とは、主のご復活のことなのでしょう。

次の総会では、共同体の日々の貧しい現実において、イエスとのこの邂逅を生きる上で具体的な助けが得られるよう、本会のために願っております。

私にとって、希望とは？

Br.マヌエル(ミラフローレス)



私は神の被造物であり、神は私を運命のなすがままに捨て置かれはしません。神は私に

御計画をお持ちです。神が私に進ませる道がいかなるものであれ、たとえそれが苦しい浄化の道であったとしても、「いずれ、すべてはよくなる」(ノーウィッチのジュリアナ)のです。

総会が、多様性のうちに、生き活きと参加する姿を現わすものとなりますように。

わたしは、総会を、どう体験しますか？

D. アルベリコ(スヒールモニコーフ)

神はいずこにおいても同じですが、人間はそうではありません。ルルドは素晴らしい場所でした。自分の総会の体験ならズバリ、これ、とい

えるものがあります。それは全体会議を行ったルルドのピラミッド型の講堂です。お互いの

背中ではなく、お互いの顔が見えました。強烈な体験でした。私は最近長上になったばかりですが、この体験が心に刻印されています。私たちは共に集うのです。

残念ながら、その場所柄は私たちにとって最適とは言えませんでした。問題ありません。

たとえ全体会議場で互いの姿がほとんど見えない場合でも、総会のたびにこの経験が物を言うのです。互いの姿を実際に目にすることは、互いの心を開くことにつながります。それは、膨大な書類の山やコンピューターの画面の向こう側で起こる出来事であり、人はどこにしようとも、神のうちにいることができる、という希望の光を、総会のたびに、私たちに与えてくれます。ただそれだけのことなのです。



(1)

“BOAT!”

「舟だ！」

(2)

“LAND!” 「陸だ！」

## 総会を準備すること



Sr. マリルチア (キルボ)

総会の準備は、複雑で長期間にわたる計画を必要とするプロセスです。総会は、業務的な

側面だけでなく、霊的な側面も併せ持つ会合であるため、私たちは、総会の最後の瞬間ま

ですべてが円滑に進むよう、多くの目的を持つこの会合に奉仕しようと努めています。私は、

2022年の総会の経験を感謝の気持ちとともに思い起こします。慌ただしい日々にもかかわらず、

本会の懐に抱かれている喜びの中で心が安らいだように感じたからです。

最近、私たちはチリで中央委員会を開きました。

そして、共通の遺産に対する願い、今日

語られる聖霊に耳を傾けたいという願いに気づきました。2025年の総会が、霊的な傾聴

の場となり、愛が具体的に現わされ、預言の霊が再び燃え上がる場となることを願ってい

ます。

旅路の祈り

神よ、

御名において二人か三人が集うところ、あなたは  
そのただ中におられます。

本会の総会まで、あと一年となりました。

そこへ、世界中から沢山の人々が御名において集  
まります。



そこで、諸共同体  
からの幾千もの修  
道士、修道女とひ  
とつになります。

私たちはこの行事  
に、あなたの聖霊

の働きを求めるために参ります。

一年後のアッシジへの旅行のため、予定を空けて  
確保するすべての人を祝福してください。

今、集中的な準備期間に臨むすべての人を祝福し  
てください。

総長と顧問会、総会を司る連絡委員会を祝福してください。

この集いに祈りを込めて希望を託すすべての兄弟姉妹を祝福してください。

シト一会のカリスマに忠実に留まり、喜びのうちに神のために共に生きる、すべての共同体を祝福してください。

主よ、私たちと共にあり、そのただ中にお留まりください。

私たちの主キリストによって。

アーメン。

ここで、お笑いを一席

一組の男女の修道院長が、顔を合わせます。

女子の方が男子の方に尋ねます。「総会のこと、もう、お考えになりました?」

彼は答えます。「はい、もう考えました。」

それで、彼女は尋ねます。「まあ、では、中央委員会の議事録は、もう、お読み?」

彼は答えます。「いえ、まだ読んでいません。」

彼女は尋ねます。「では、もう、ハウスレポートや地方レポート作りに励んでおられるの?」



彼は答えます。「いえ、まだ始めていません。」

彼女は尋ねます。「何かの議題について、兄弟たちとはもう、対話済み？」

彼は答えます。「いえ、まだなんですよ。」

そこで、彼女が尋ねます。「じゃあ、総会のために、もう、何をなさったわけ？」

彼は答えます。「申し上げたとおりです。私はもう、総会のことを『お考えになった』んです。」



希望には美しい娘が二人います。その名は「怒り」と「勇気」です。ずるずるの体たらくに「怒り」、このままではいけないと「勇気」をもって見定めることです。

聖アウグスティヌス

その行く手には、果てなき道、望みなき迷路が待ち受けています

- 神よりも先に、あれこれの富を求める人々には。

クレルヴォーの聖ベルナルド

希望はイエスからの賜物です。希望はイエスご自身であり、その名を帯びています。しかし

それは、中身が半分入ったグラスを見て、お約束的に「まだ半分あるじゃないか」と考える

類の希望ではありません。それは単なる楽観主義に過ぎません。楽観主義は、諸々の要

因に左右されてしまう人間的な態度です。しかし希望は違います。楽観主義ではありません

ん。希望とは、賜物、聖霊の賜物であり、それには名があります。希望は、イエスです。

教皇フランシスコ

THE CENTRAL COMMISSION, CHILE 2024

